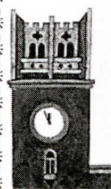


地区だより—北から南から—



平成二十八年度の活動の概要

北海道稲門教育会会長
北海道札幌西高等学校長

小島 晶 夫



今年度、前川洋前会長の後を引き継ぎ、北海道稲門教育会の会長を務めることになりました小島です。微力ではありますが、本会の発展に尽くしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願います。

さて、本会は、教育に情熱を傾ける校友どうしが、胸襟を開いて語り合う場を設けようと昭和五〇年代に組織されたのが始まりで、本年、三十八年目を迎えました。会員は現在一三八名を数え、そのうち八〇名程が全道各地の高等学校及び北海道教育委員会等で活躍しています。主な活動は、一月上旬の「総会・教育懇談会」の開催と七月下旬の「夏季研修会」の開催です。

今年度の「総会・教育懇談会」は、一月一日に札幌ガーデンパレスで、OB・現役会員・教育関係者を含めた二〇

名が参加して行われました。また、この時に合わせて「早稲田学報」の北海道教職版の意味を込めて平成二年に創刊された「北海道稲門教育会会報」の最新号が配布されますが、八ページの誌面からは、全道各地で活躍している会員諸兄の活躍の様子を知ることが出来ます。

もう一つの夏期研修会は、早稲田大学入学センター副センター長・文学部教授の沖清豪先生を講師にお招きし、昨年七月三〇日にホテルライフォート札幌で一七名の参加のもと



行われました。沖先生からは、「Waseda Vision 150」の入試

改革も多様で優秀な学生獲得のための方策」という演題で
ご講演をいただきましたが、その中で、先生が深く関わっ
ていらつしやる高大接続システム改革会議での審議の内容
の他、道内高校出身の学生の動向などについてもお話をい
ただきました。特に高大接続システムの改革に係るお話は、
高校教育が大きな変換点を迎えつつある中、教育改革の現
状や方向性について深く理解するよき機会となりました。

さて、現在、本会の大きな悩みは、会員数が年々減少し、
それに伴い研修会や懇親会の参加者も減少していることで
す。本会所属の会員の退職に伴う会員数の減少が原因の一つ
ですが、早稲田を卒業して北海道の教員となる若者がほと
んどいないことも大きな原因と考えております。早稲田と
しても、一都三県以外の高校出身の受験生には入学前予約
給付型奨学金を用意するなど、地方の優秀な生徒がほしい
という気持ち強く持っているようですので、まずは教育
に関わる私達の力で、都の西北を目指す生徒を増やすよう、
道外でチャレンジしたいと考える「進取の精神を持つ生徒」
を育てなければと考えております。

今後とも、北海道稲門教育会は早稲田大学稲門教育会の
北極星として輝き続ける所存です。

平成二八年度茨城県稲門教職員会報告

茨城県稲門教職員会幹事長
茨城県立下妻第一高等学校長

秋 葉 和 洋

本会は、早稲田出身の小学校・中学校・高等学校の管理
職と行政機関に勤務する職員を会員として、平成二〇年に
再結成され、九年目を迎えました。毎年一月に、母校か
ら来賓の方をお招きして、総会、研修会、懇親会を開催し
ております。

再結成された平成二〇年当時の会員数は五三名でしたが、
先輩方が定年退職され、新たな会員の入会が少なかつたこ
とから平成二七年度は四〇名まで減少してしまい、今後、ど
のように本会の発展と活性化を図っていくかが課題となっ
ておりました。

この課題を解決すべく、平成二七年度の総会において、野
内俊明前会長を始めとする役員の皆様のご尽力により、平
成二八年度から管理職以外の一一般の教員にも積極的に入会
を呼びかけるといふ新規会員拡大案が承認されました。

昨年度から今年度にかけて、平成二七年度の会員と親交
のある早稲田出身者に稲門教職員会への入会をお願いした
結果、新たに四五名の方に参加していただけることになり、